

Cross Country 誌にて、
20周年を迎える ICARO-Paragliders 社のインタビュー記事が掲載されました。
以下の和訳をご覧ください。



◀ Team ICARO
ベラとヴォルフガング
(左から2番目と3番
目)、ザンディ・メッ
シュ(黒のビーニーキャ
ップ)と、その他の
ICARO メンバー。

THE NAKED PILOT

ICARD'S VERA & WOLFGANG

20周年を迎える ICARO-Paragliders 社の Vera Kaiser (ベラカイザー/以下ベラ) と Wolfgang Kaiser (ヴォルフガングカイザー/以下ヴォルフガング) 夫妻に話を伺いました。

ベラ: 1985年、ハンググライダーのパイロットにフライトを誘われ、私は驚きました。自由に飛べるなんて知らなかったのです。フライトは感動的な体験であり、私の人生を変えました。私は仕事を辞め、パラグライダーとハンググライダーのインストラクターになりました。1995年にヴォルフガングに出会い、バイエルンに移り、2000年に ICARO-Paragliders 社を設立したのです。

ヴォルフガング: 私は80年代と90年代には情熱的なハンググライダーパイロットでした。ウィルスウィング社と後に ICARO2000 社のハンググライダーをドイツとオーストリアで販売を行っていましたが、ハンググライダーの市場が縮小していき、私たちは自分たち自身でパラグライダーのブランドをスタートさせる素晴らしいアイデアを持ちました。私たちはパラグライダーのパイロットではありませんでしたが、私はケッセン(オーストリア)の Sepp Himberger でパラグライダーライセンスを取得し、パラグライダーを覚えました。現在、私が飛んでいるのはパラグライダーのみ。ICARO2000 社は、そのブランド名を私たちが使用することを喜んで承諾してくれ、よく知られた名称で良いスタートを飾ることが出来ました。

ベラ: 2000年の終わりごろ、パラグライダー市場に参入しましたが、その頃、私たちはまだハンググライダーに非常に熱心で、パラグライダーがそれほど急速に成長するとは信じたくありませんでした。今から思い返すと、新しいパラグライダー会社をさらに5年前にスタートした方が良かったでしょうね。

ヴォルフガング: 私たちは最初から我々自身の製品を、デザイナーのミハエル・ネスラーとともに開発を開始しました。サンディー・メッシュが加わった際は、彼はアクロ機の製作を欲しました。こうして最初のニキータが2006年に製造され、ベルント・ホーンバックとサンディー・メッシュは、そのフライトチーム「アゲインスト・ザ・グレイン」を率い、ニキータを持って世界中を旅しました。つまり私たちは、じっくりとブランド名を育成させていったのです。私たちは他のブランドとの差別化のためにアクロを用いました。これは多くの若者たちをひきつけることに成功したのです。

ヴォルフガング: 2004年に、私たちにとってハイライトだった独自のオフィスを持つことが出来ました。私たち自身のオフィススペースとワークショップを所有したことは、素晴らしいことでした。それは私たちがその後何年にもわたって大きく成長するのに役立ちました。

ヴォルフガング: 数年前、私はフライトが非常にエキサイティングであることを実感していましたが、デザインと色に関して興味ありませんでした。しかし2015年になって、我々はこのことについて話し合い、最初からやり直すことにしました。

ベラ: 私たちだけがそのままでしたが、新しいデザイン、新しいウェブサイト、新しいマーケティング、新しい人々、新しいデザイナーを作り直しました。そして、グライダーの新しいデザインであるエーデルワイスのロゴは、自然とのつながりを示すようにしています。翼のコンセプトも一変しました。私たちの製品におおらかな楽しさを取り戻そうとしたのです。パラグライダーはライフスタイルであり、そのことを我々の生み出すグライダーにも反映させるべきだと考えました。このころはまだ理解されなかったコンセプトでしたが、しかし徐々に認められていき、今ではこれを追隨する他社も現れてきました。

ヴォルフガング: 飛ぶことは私たちの生き方そのものになりました。パラグライダーは自動車とはちょっと違って、それ自体が感動であり情熱なのです。この信念で私たちはスタートし、今もなおそう信じています。

ベラ: 飛ぶときは楽しさしか求めません。私たちは、ケッセン(オーストリア)やそのほかの著名なエリアのあるババリア・アルプスの近くに住んでいます。私たちの素晴らしいエリアで飛べば、他に比べることが出来ません。山にハイクアップし、オフィス玄関の目の前にランディングすることができるのです。

ベラ: 私たちはとてもオープンな会社です。お客様からのコンタクトは大歓迎で、テストフライトしてどうであったか、ディストリビューターとのつながりはどうなのかを知り、パイロットのニーズに耳を傾けるために数々のテストイベントへの参加を欠かしていません。

ヴォルフガング: 2人がずっと家族として協調して共に仕事をしてこられたことを誇りに思います。25年間にわたって一緒に過ごしてきました。私たちの娘は、弊社のマーケティング担当で、彼女のパートナーは ICARO グライダーの現デザイナーです。このチームは素晴らしいものです。パラグライダー会社を運営していくにあたって、飛ぶことへの情熱を持ち続けることは重要であると考えます。1ヶ月に数回のフライトの中で、最新のグラヴィス2でも飛ぶし、翌シーズンに向けてのプロトタイプ機でも飛びます。・・・これはトップシークレットですが！

単にセールスや会社の数字ではなく、このスポーツへの情熱でもあるのです。

ウォルフガング: 今年是我が社にとって問題はありませんでした。いくらかの在庫余裕があつて、業務を見直す時間や自由な動きが取れました。皆さんと同じような生産上の問題もありましたが、総じて、前向きな年だったと言えるでしょう。コロナウイルス禍後の、今後の2年間でのマーケットの発展が楽しみです。

ウォルフガング: 20年前、今でも同じ仕事をしているとは思っていませんでしたが、パラグライダーの仕事で100%生活しています。私たちは最大級のメーカーではありませんが、良いお客様に恵まれ、財政は健全で、生活を楽しんでいます。自分たちが成し遂げてきたことを誇りに思っています。



ICARO-Paragliders 社の歴史が垣間見れましたね。

ベラが最後に、「私たちはとてもオープンな会社です。お客様からのコンタクトは大歓迎」の言葉は ICARO-Paragliders 社の MANIFESTO 2.0 に詳しく記載されています。

パイロット達の声を大事に、情熱を費やし、飛ぶ楽しさを未来につなげて行くことは、さらなる発展へと導いていくでしょう。これからの ICARO-Paragliders 社に期待しています。



【ICARO MANIFESTO 2.0】

飛ぶことが常に ICARO 社の思いの中心にあります。全ての技術開発、全ての新しいアイデアは、空中での経験をより高いレベルへ、より快適に、そしてより安全なものにしていく大切な 1 歩なのです。こうして ICARO 社は過去 20 年間で多くのものを達成し、そして今後もこの信条に忠実に歩んでいきます。

そして今、ICARO 社はパラグライダーの新しい時代に入りました:さらに機動性が高く、さらにダイナミックに、さらにエキサイティングに。これからはパイロットの生きかた、感じかた、そしてパイロット自身のスタイルを ICARO 社は大切にしていきます。

ICARO 社はパラグライダーをもっと粋にとらわれないユニークで多様性に富むものにしていきます。

ICARO 社はもっとダイナミックで多種多様なものにしていきます。

ICARO 社はパラグライダーで飛ぶことをもっと楽しくしていきます。

これらを達成するために ICARO 社は、全てのパイロットが新しい何かをつかみとったと思えるような最新の製品を求めています。

またこれらを達成するために ICARO 社は、その新しいカテゴリーとしてフリースタイルを求めています。

ICARO 社はパイロットが 1 人でもあるいは仲間と共にでも自然と触れあい感動していく事を求めています。

ICARO 社は大切な時を共有し分かち合う経験を求めています。

ICARO 社は斬新で鮮烈なスタイルのパラグライダーを求めています。

一つ一つの細部に込められた愛、主張あるデザイン、環境に対する責任:

ICARO 社はこれらを念頭に高い基準を設け、パイロットとともにこれを達成していこうとしています。

ICARO 社はパラグライダーに新鮮な息吹きを吹き込みます。このスポーツには刺激が求められています。

ICARO 社は今まさにその 1 歩を踏み出しました! ICARO 社とともに大空へ飛び出しましょう。